

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：32403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22531027

研究課題名(和文) 英国の学校における人格・価値教育の実施状況に関する研究

研究課題名(英文) A study on the state of implementation of personal and values education in English schools

研究代表者

新井 浅浩 (ARAI, ASAHIRO)

城西大学・経営学部・教授

研究者番号：80269357

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：英国の初等・中等学校における人格・価値教育は、シティズンシップ教育、PSHE(Personal Social Health Economic)教育、宗教教育が、それぞれ独自性と共通性を持ちつつ展開されているが、それらがどのような政策と指針によって示され、実際に学校で、どのように翻訳され実践されているかを解明した。その際、比較教育学、授業研究、教育心理学を専門とするものが共同して現地調査を行い、得られた知見を共有した。

その結果、三者の連携に際して重要なのは子どもの効力感であり、そのための事例を、学校全体の取り組みや子どもの言語活動に見出した。これらを学会等で発表するとともに論文にまとめた。

研究成果の概要(英文)：Personal and values education in England is put into practice through citizenship education; personal, social, health, and economic education (PSHE); and religious education, which share commonalities while also remaining distinct. In this project, we examined what kinds of policy the central government presents for personal and values education and how these policies are implemented in different school settings. Three of scholars of comparative education, lesson studies, and educational psychology worked together to conduct field surveys and share the findings. One of the main findings is that student efficacy is the key factor when collaboration among the three types of personal and values education are embodied. We examined cases of the whole-school approach and verbal activities, for enhancing student efficacy. The findings were described in several articles and presented at conferences.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：比較教育 イギリスの教育 価値教育 人格教育 市民性教育 宗教教育 PSHE 道徳教育

1. 研究開始当初の背景

社会の変化やグローバル化が急速に進む現代社会にあって、学校は新たな課題への対応をせまられている。今それを、市民性 社会性 宗教性 というキーワードで捉えてみると、それらは、我が国の従来の教科や領域の枠組みの中で、必ずしも対応しきれるものではなくてきている。我が国においては、今後、こうした観点からの人格・価値教育をどのようにすすめていくかを検討する必要がある。

本研究で取り扱う英国(とくにイングランド)は、近年世界的に注目され、また実践が開始されているシティズンシップ教育をいち早く必修化したことで知られている。そして、同国のシティズンシップ教育に関しては、我が国においてもすでに、いくつかの先行研究がある。代表的なものとしては、池野範男による4年間にわたる科学研究費補助金研究があげられる(『我が国を視点にした英国シティズンシップ教育の計画・実施・評価・改善の研究 地方行政局と大学と学校が連携した教育 PDCA 開発』(平成17年度~平成20年度科学研究費補助金(基盤研究(A)研究報告書:研究代表者:池野範男)。同研究は、英国のシティズンシップ教育を「教育行政」「教育課程」「教科書」「学校教育現場」「教員養成」「教育評価」という6つの観点からまとめており、英国のシティズンシップ教育を体系的にとらえたものとして、評価されている。

ところで本研究の代表者である新井は、これまで研究代表者もしくは研究分担者として関わってきた科学研究費の共同研究等により、英国における人格・価値教育の展開は、a)従来から必修である宗教教育、b)人格や社会性の発達のための教育として長く実践され現在必修化が議論されている PSHE(Personal, Social, Health and Economic)教育、c)後に必修になったシティズンシップ、の三つが連携したかたちで取り組まれていることを明らかにした(柴沼晶子・新井浅浩編著『現代英国の宗教教育と人格教育(PSE)』東信堂、2001年)。とりわけシティズンシップが必修化された2002年以降は、シティズンシップ教育への注目度が高くなったが、その詳細を見ると、)単に政治教育に限定したのではなく、)子どもの人格形成を求めた総合的な展開を目指しているものであり、)その実践は、PSHE教育の実践的蓄積の上に展開されたものであることを見出している(武藤孝典、新井浅浩編著『ヨーロッパの学校における市民的社会的教育の発展 フランス・ドイツ・イギリス』東信堂、2007年)。このように、英国の人格・価値教育の展開は、シティズンシップ教育、PSHE教育、宗教教育の連携という観点からとらえることが大切である。

英国においてシティズンシップ教育必修化1年目に中等学校1年生であった生徒が

2009年に18歳を迎え、導入初期の混乱を経て安定的な実践の段階に入ったことや、初等学校でのシティズンシップや PSHE 教育の必修化が議論されている今日、英国の人格・価値教育は、新たな局面を迎えている。その意味で、英国の学校における人格・価値教育が、実際の学校レベル、授業レベルにおいて、どのように実践され、またどのような問題点・課題を抱えているかを詳細に把握すべき時期に来ているといえよう。

また、本研究の代表者新井と分担者藤森は、それぞれ比較教育学、教科教育学・授業研究という異なる専門をもっているが、お互いを補完しつつ、英国のいくつかの初等・中等学校の定点観測による共同研究を進めてきた(『イギリスの初等中等教育に関する調査研究報告書』財団法人教科書研究センター2011年3月)。その結果、近年の英国の学校における授業実践において、様々な教科の中で、思考スキルの育成、ICTの活用、新たな評価方法の導入などに注目すべき進展を見出している。人格・価値教育の実践の姿を把握する上でも、これらの実践上の工夫が、その効果にどのように寄与しているかを見出すことが重要である。

2. 研究の目的

本研究は、英国の初等・中等学校における人格・価値教育の実施状況を、市民性 社会性 宗教性 というキーワードによって研究するものである。英国の学校においてはシティズンシップ教育、PSHE教育、宗教教育が、それぞれ独自性と共通性を持ちつつ展開されているが、それらがどのような政策と指針によって示され、また実際の学校において、教師たちによってどのように翻訳され、実践されているかを、三者の連携という観点から解明するものである。このことにより、新しい課題に対応するわが国の教科や教科外領域の教育の在り方を模索する上での一助となることを目指している。

3. 研究の方法

1)英国において、新たな局面を迎えているシティズンシップ教育、PSHE、宗教教育のそれぞれについて、政策文書や先行研究に基づき、そのカリキュラム構造や実践の指針を分析し、その連携のありようを整理する。その結果を現地調査の視点とする。

2)上記の視点から、英国において典型的ないくつかの地区において、代表校を訪問し、校長・授業者へのインタビューや資料収集、および詳細な授業観察にもとづき、シティズンシップ教育、PSHE教育、宗教教育が、それぞれどのように実践され、また工夫されているかを調査する。

3)以上に基づき、英国における市民性 社会性 宗教性 をキーワードとした人格価値教育の理念的・実践的特徴、問題点と課題を究明する。

4) 実践的特徴を分析するに当たっては、2012年度から教育心理学を専門とする藤森千尋が研究協力者として参加した。

4. 研究成果

本研究では、人格・価値教育を、子どもが、i) 価値について学び、それを踏まえて ii) 自ら考え判断し、iii) 行動する人間を育てると捉えた。英国においては、それらがシティズンシップ教育、PSHE 教育、宗教教育の連携により展開されているが、その政策および学校における実践の姿を文献調査および3度にわたる現地調査をもとに検討した結果、以下のことが明らかになった。

1) 価値については、子どもたちが自らの道徳的心情をささえている宗教的価値や、それとは違う価値についても知る宗教教育や、現代的な諸問題における価値について関連する知識の提示を含めて行う PSHE 教育や、その問題の中でもとりわけ民主主義価値について扱うシティズンシップがそれぞれ担っているが、この三者が連携することによって、扱う価値の内容は脱文脈化されないものとなる。このことにより、学習内容のレリバンが担保されているといえる。

2) 子どもたちが、そうした価値の提示を受けて、自ら考え判断するための取り組みは、授業方法における設問の工夫、討議法の活用、評価方法の工夫、に見出すことができる。これらは、シティズンシップ教育、PSHE 教育、宗教教育いずれの授業実践においても共通して確認することができた。

3) 子どもたちが価値について知り、自らをかかわらせて検討するだけでなく、行動に移すのを目指すことは、イギリスにおいても重視されている。本研究では、行動に移すためには子どもが自己効力感を持つことが重要であると捉えた。シティズンシップ教育と PSHE 教育が連携する意義の一つをここにも見出すことができる。この知見は、イギリスのシティズンシップ教育必修化後 10 年にわたりおこなわれた経年的包括的研究調査の過程において、その実践的特徴の分析に際し、カリキュラムの推進と参加行動の機会の提供に加えて、生徒の効力感を高めることを目指すという視点が浮き彫りにされたとの指摘から得ることができた。

4) 自己効力感を高めるための実践的工夫は、PSHE などのカリキュラムでセルフ・エスティームについて取り扱うだけでなく、学校全体での取り組みの事例や、個々の授業における言語活動の充実の中に見出すことができた。

研究の期間中に交代した政権においては、それまでのナショナルカリキュラムの全面的な見直しを宣言し、改訂作業を続けた後、2014 年からの新しいナショナルカリキュラムを打ち出した。新しいナショナルカリキュ

ラムの体制下においては、基準として定める知識やスキルの取り扱いについて大きな転換をみせているが、このことは人格・価値教育のあり方にも少なからず影響を及ぼすと考えられる。教科を横断して汎用的スキルの育成をすすめることを強調していた改訂前のナショナルカリキュラムと違い、各教科については獲得すべき知識に絞り、獲得するスキルはそれらの領域に固有なものとしてとらえていると考えられる新しいナショナルカリキュラムでは、カリキュラム全体で、その育成を目指すスキルが見えにくくなっている。このことから、自己を調整する力などスキルの育成を全面に掲げている PSHE 教育の位置づけはこれまで以上に重要なものとなることが予想される。そしてそれが、シティズンシップを教育や宗教教育と、どのように連携をとっていくのかについて、引き続き学校における実践のありように注目していくことが望まれよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

新井浅浩「英国の初等中等学校の行方 連立政権による学校の自由化政策」『内外教育』602号、2010年14-16

藤森裕治「英国の総合学習における交流活動と学習形態」『月刊国語教育研究』458巻2010年4-9

藤森裕治「英国型ガイドド・リーディングのすすめ」『実践国語研究』302号3 2010年9-10

藤森裕治「課題探究能力としての言語力」『月刊国語教育』30-1号2010年22-25

新井浅浩「教育講演：豊かな人間性を育てるための方略」『日本看護学教育学会誌』21-2号2011年77-84

藤森裕治「『思考・判断・表現』の学力としての『書く能力』」『日本語学』30-10号2011年52-61

新井浅浩「イングランドの中等学校における宗教教育カリキュラムの実例 ロンドンの中等学校の事例を中心に」『学校における「宗教にかかわる教育」の研究(1)-日本と世界の「宗教にかかわる教育」の現状-』公益財団法人中央教育研究所78号2012年50-70

藤森裕治「読解力再考」『日本語学』30巻2012年76-87

藤森裕治「美しい論理力」『信濃教育』1,507号2012年10-19

藤森裕治「続美しい論理力」『信濃教育』1,508号2012年10-19

藤森裕治「授業づくり30の知恵」『埼玉教育』759号2012年2-32

新井浅浩・藤井泰「イギリスの教育課程」『諸外国の教育課程と資質能力 重視する資

質・能力に焦点を当てて』(教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書 6) 国立教育政策研究所 2013年 15-26

藤森裕治・新井浅浩「イギリスの読書指導」『読書科学』56-1 2014年 1-13

藤森裕治「イギリスの『きく』学校に学ぶ」『指導と評価』60号 2014年 9-11

新井浅浩「イングランドの中等学校における宗教教育の実際 学習評価を中心に」

『学校における「宗教にかかわる教育」の研究(2)』公益財団法人中央教育研究所 81号 2014年 70-83

藤森千尋「イングランド初等・中等教育における自律的学習者の育成 形成的自己評価につながる『学習の自己モニタリング』に着目した授業分析」『自律した学習者を育てる英語教育の探求』公益財団法人中央教育研究所 82号 2014年 63-77

〔学会発表〕(計 15 件)

新井浅浩・藤森裕治「イギリス初等中等学校の授業実践と教材づくり」平成22年度教科書セミナー」2011年2月28日 (財)教科書研究センター

藤森裕治「学校、教科を越えて生きて働く言語力とは何か」日本国語教育学会(招待講演)2010年6月16日 中野市立豊井小学校

藤森裕治「国語科教育における各国のデジタル教科書事情」国語と情報教育研究プロジェクト 2011年1月29日 内田洋行新川オフィス

新井浅浩・藤森裕治 「イギリス初等中等学校の授業実践と教材づくり」

全国教育研究所連盟平成23年度研究発表大会(北海道大会) 2011年6月3日 ホテルライフオート札幌

新井浅浩「イングランドにおけるシティズンシップ・PSHE・宗教教育の連携 セルフ・エスティームを巡って」日本道徳教育学会第77回大会 2011年7月2日 長崎大学

新井浅浩 「豊かな人間性を育てるための方略」日本看護学教育学会第21回学術集会(教育講演) 2011年8月30日 大宮ソニックシティ

藤森裕治「Key Competencyとしての伝統的な言語文化」全国大学国語教育学会 2011年5月28日 京都教育大学

藤森裕治「単元的発想で育てる感性的思考力 イングランドの教育実践を手がかりに」日本国語教育学会 2011年6月17日 上田市立第四中学校

藤森裕治「いま育てたいコミュニケーション能力」福井県高教県国語教育研究会 2011年11月28日 福井県国際交流会館

新井浅浩「イングランドにおけるシティズンシップ・PSHE・宗教教育の連携 - ロンドンの中等学校の事例から -」日本道徳教育学会第79回大会 2012年6月24日 文教

大学

藤森裕治「イギリスの人格教育と国語教育」全国大学国語教育学会 2012/5/25

筑波大学

藤森裕治・新井浅浩「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究外国調査(イギリス)」

子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究 2012年11月4日 東京大学

新井浅浩「イングランドの中等学校における宗教教育の実際 学習評価を中心に」

日本道徳教育学会第81回大会 2013年6月23日 国学院大学

藤森裕治・新井浅浩「イギリスの読書指導」日本読書学会 2013年8月4日全林野会館

新井浅浩「シンポジウム：シティズンシップと生徒指導」日本生徒指導学会第14回(京都教育大学)

〔図書〕(計 4 件)

藤森裕治 学文社 「思考の型」(『新しい教科書の新しい教材を生かして思考力・判断力・表現力を身に付けさせる』) 2011年 全188頁(うち166-173頁を担当)

新井浅浩「道徳・公民科」「ナショナル・カリキュラム(イギリス)」「PSHE」「クリック報告」「資格カリキュラム開発機関」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂 2012年

藤森裕治『すぐれた論理は美しい Bマップ法によることばの学び』東洋館出版社 2013年 全212頁

新井浅浩・藤森裕治・藤森千尋『英国の学校における人格・価値教育の実施状況に関する研究調査報告書』城西大学経営学部 2014年 全128頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

新井浅浩 (ARAI ASAHIRO)
城西大学・経営学部・教授
研究者番号：80269357

(2)研究分担者

藤森裕治 (FUJIMORI YUJI)
信州大学・教育学部・教授
研究者番号：00313817

(3)連携研究者

なし

研究協力者

藤森千尋 (FUJIMORI CHIHIRO)
埼玉医科大学・医学部・専任講師
研究者番号：10707657